

## 「みんなでつくろう！！子どものためのルール」について（報告）

資料1

検討を進めている（仮称）子ども条例について、その内容を子どもたちに説明し、意見を聞くワークショップ「みんなでつくろう！！子どものためのルール」を平成30年4月21日（土）に開催したので、以下のとおり報告する。

- 1 実施日 平成30年4月21日（土）
- 2 場所 西東京市民会館 3階 大会議室
- 3 参加者（子ども） 30人（小学生世代 17人、中学生世代 12人、高校生世代 1人）
- 4 内容

- \* 「（仮称）子ども条例ってなあに？」…（仮称）子ども条例の説明
- \* 「みんなで考（かんが）えてみよう！グループワーク！！」…子どもたちのグループワーク

### 5 グループワークの内容

- (1) グループ・・・グループは世代別で6グループに分けて実施（小学生グループ3つ、中学生グループ2つ、中学生・高校生混合グループ1つ）
- (2) テーマ・・・現在検討中の（仮称）子ども条例の要綱案に記載されている内容について、ア 良いと思ったところ・共感したところ、イ 少し違うと思うところ、ウ 分からないところの意見出し
- (3) 方法・・・テーマのア、イ、ウについて、それぞれをふせんに記入して模造紙に貼りながらグループ内で共有し、その後グループ化を行い、大切だと思う順に番号をつける。

### 6 グループワークで出された意見

#### <グループ1> ※小学生グループ

##### 【良いと思ったこと】

- ・虐待を防ぐ、いじめ問題に対応する、子どもの意見を大切にするという施策が良い。
- ・子どもの話をするときは、おとなだけでしないで欲しいから、子どもの意見を大切にするというのは良い。

##### 【子どもにとって安全でないこと】

- ・公園や道路でおとなに配慮の無い言葉を掛けられる。（どけよ・うるさい・公園で遊ぶな等）
- ・歩道がない道路や横断歩道がないところがある。
- ・ボール遊びができる公園がほしい。

##### 【大人がルールを守っていない！】

- ・深夜、バイクが出す騒音でなかなか眠れない。
- ・車の運転マナーが悪い。
- ・電車内での音楽の音量
- ・線路や道路へのポイ捨て

##### 【「子どもの意見」聞いてほしい！】

- ・子どもには「やってはいけない」などの制限を掛けるのに、おとなはそのルールがない。大人は自分にあまい。大人の権利は子どもの10倍くらいある。

- ・家族が家でスマホを見ていて、話しかけても反応してくれないことがある。

【分からないこと】

- ・「権利には義務がともなう」というが、赤ちゃんは何もできない。
- ・子どもの貧困を防ぐこと、子どもの権利擁護委員など、具体的なことが分からない。

<グループ2> ※小学生グループ

【良いと思ったところ・共感したところ】

\*「居場所」について

- ・子どもの居場所づくりについて書かれているのがよい。公園や地区会館等の使い方について、子どもの意見も聞いてもらえると良い。
- ・いじめ、虐待について、相談できる場所があると良い。

\*「コミュニティ」について

- ・いじめ等、子どもの問題もおとなが理解して解決に取り組む。
- ・面識がある人は、会釈だけでも挨拶をする。関わるおとなが子どもの異変に気付けると良い。
- ・子どもの経験や考えを聞くことは必要

【少し違うと思うところ】

- ・子どもの貧困の防止は、子どもが変えてほしくならやらないほうが良い。取り組むことがいじめにつながるのではないか。きちんとその子に届く何かしらの援助は必要。

【分からないこと】

- ・いじめについて、おとなはいじめの有無を気にしているが、内容はあまり気にしてくれない。
- ・いじめへの対応や子どもの権利の周知などの具体的な支援の内容
- ・子どもの考えを大切にすることがよくわからない。おとなが決めても良いのではないか。

<グループ3> ※小学生グループ

グループワークでは「子ども施策と子どもにやさしいまちづくりの推進」について考えた。

【子どものためにおとなたちが努力をするところが良い】

- ・子どもの居場所づくりを進めること、子どもの意見を聞くことなど、子どものためにおとなが努力していくことが書かれてあり良かった。

【いじめ対応について】

- ・いじめの対応をするのは良いが、もう少し具体的に書いたほうが良いと思う。

【分からないこと】

- ・簡単な言葉でかいてほしい。

<グループ4> ※中学生グループ

【前文について】

- ・「子どもは一人ひとりの違いが認められ自分らしく育つことができること」や子どもの意見表明・参加について良いと思う。
- ・子どもが安心して自分の思いを伝えられるように、おとなは子どもに向き合って話を聞く。子どもが安心して伝えられないから、権利擁護委員が必要になるのだと思う。
- ・「子どもは」の意味がよくわからない。子どももおとなも同じじゃないのか。

【総則について】

- ・子どもの意見を尊重するのは良い。
- ・おとなの役割について、協力してくれるのはありがたいが、変に関わられたくはない。

【子ども施策と子どもにやさしいまちづくりの推進について】

- ・安全で良好な環境づくりに取り組んでもらえるのが良い。
- ・虐待は、子どもから誰かに言うことは難しい。周りの人が気付かないといけない。ただ、通報することは怖くてできないと思う。
- ・具体的な内容について知りたい。

【推進と検証】

- ・市民の意見を活かすといっても方法はなにか。

<グループ5> ※中学生・高校生混合グループ

【良いと思ったところ・共感したところ】

- ・子どもの意見・考えをないがしろにせず、大切にしてくれる。
- ・失敗や間違いをしてもチャンスが与えられるのは素晴らしい。
- ・相談・救済について、一緒に考えたり、アドバイスしたりして、最終的に回復・立ち直りまで考えてくれていることが良い。

【分からないところ】

- ・色々なことの実例が分からない。(地域が子どもたちに支援していくこと、貧困の子どもへの支援など)

【要望的な意見】

- ・支援者自身のマナー講習を受けさせてあげてほしい。
- ・いじめが原因でない不登校の子どもにも着目してほしい。

<グループ6> ※中学生グループ

グループワークでは「前文」について考えた。

【良いと思ったところ・共感したところ】

- ・子どもの話をよく聞き、寄り添うということが良い。
- ・子どもが保護者だけでなく、全体で守るということ
- ・失敗してもやり直せること。

【少し違うと思うところ】

- ・「子どもは一人ひとりが人間として大切にされること」は当たり前のことで、子どもだけに当てはまらない。

【分からないところ】

- ・意味が分かりにくいところがある。

\*どの年齢にも分かりやすく。難しい言葉は分かりにくい。

\*大事にされるのは子どもだけでなくすべての人

\*表現の仕方をはっきり分かる形に。